

北海道各地から産出する黒曜石
その14とようらちいき
豊浦地域

(Toyoura Area)

道南地方においては、赤井川村や豊浦町から産出する黒曜石が知られています。

豊浦町豊泉地区を流れる豊泉川では、黒曜石が転石として見つかります。流されて磨耗した黒曜石の表面には孔があいており、まるで火山ガスが抜けたように見えますが、これは球顆が抜け落ちた部分と思われます。これらの表面は黒色ですが、割れ面は滑らかで透き通った感じの光沢があり、光に当ててみると透明度が高く、結晶や晶子は多くありません。

また豊浦町一帯には、約13万年前に洞爺カルデラに起因する火砕流堆積物(奥村ほか、1984)が分布しています。その中でも岩片の多い部層にわずかですが、黒曜石が含まれています。しかし、数mmから1cm程度の破片で数量もさほど無いので、よほど気を付けないと見逃してしまいます。この破片は黒色や灰色をして、更に小さな球顆を含んでいます。

その他、高規格道路の豊浦トンネル掘削の時に、人頭大程の黒曜石が大量に産出したそうです。これと同様の黒曜石かどうか分かりませんが、豊浦町で黒曜石を採取しました。それは、噴出した溶岩が流れ冷えて固まる際に引き伸ばされ、割れて角張っている黒曜石です。表面は灰色で酸性土壌の影響で溶けてガサガサしていますが、割れ口は滑らかで大部分は黒色をしています。また表層には球顆が入っていたり、それが抜け落ちて孔だけ残っていたり、更に層状に球顆が入っているものもあります。特徴のある黒曜石と言え肉眼で産地を特定できます。

豊浦産の黒曜石は豊浦組成グループになります。石器の材料としても適しており、道南の遺跡からは、豊浦産の石器が使用されていたと言う話も聞きます。これまで噴出源は明らかにできていませんが、周辺の沢や火砕流堆積物中などからも新たに黒曜石が見つかる可能性があると考えられ、今後、噴出源や年代を特定できるかもしれません。(学芸員 向井 正幸)



風化面は灰黒色だが断面は透き通ったガラス質で良質の黒曜石である。少しかための黒曜石である。



約13万年前に洞爺カルデラに起因する火砕流堆積物が分布している。この中にも数mmから1cm程度の破片となった黒曜石が含まれる。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

